

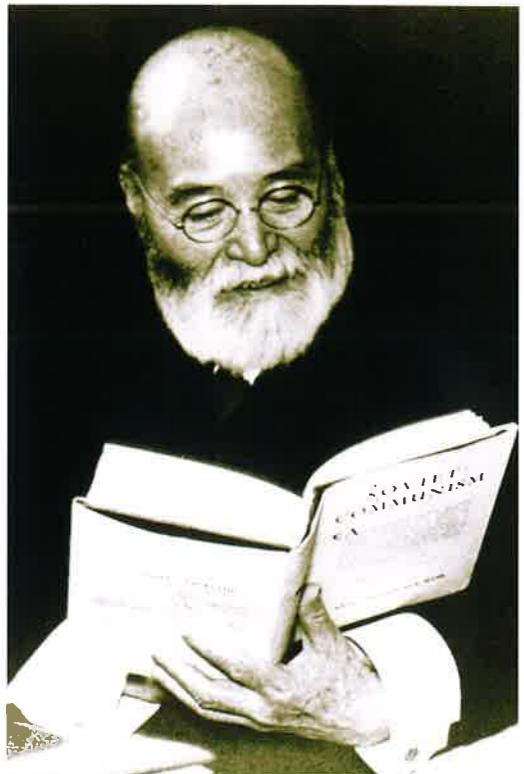
開成中学校・高等学校



The pen is mightier than the sword.

since 1871

学園のあらまし



●初代校長 高橋是清先生

開成の“はじめて”年表

●明治 4年(1871)	佐野鼎先生「共立学校」創立
11年(1878)	高橋是清先生 初代校長に就任
19年(1886)	飛鳥山ではじめての大運動会 はじめて「ペンケン」の校章をつける
21年(1888)	端艇会(ボート部)を創立 部活動の始まり
28年(1895)	校名を「開成」と改める はじめての修学旅行を行う 初代校旗完成
33年(1900)	はじめての合宿(水泳部)を行う
39年(1906)	はじめての遠距離徒歩競争を行う (現在の開成マラソンのはじまり)
●大正 9年(1920)	東京高等師範附属中学(現、筑波大学附属高等学校)とのボートレースが始まる
13年(1924)	学園は神田淡路町から西日暮里(現在地)に移る
●昭和 10年(1935)	「校歌」が制定される
23年(1948)	開成高等学校が発足する
34年(1959)	高校生徒会が発足する (中学生会は翌35年に発足)
35年(1960)	高校からの公募を始める はじめてのスキー学校が開かれる
●中学校	生徒定員……… 900 学級数……… 21
●高等学校	生徒定員……… 1,200 学級数……… 24

開成学園は、明治4(1871)年、幕末の進歩的な知識人であった佐野鼎先生によって創立されました。先生は、欧米の教育事情を視察した折に、わが国にも欧米みなみの学校が必要であることを強く感じ、帰国後、創立を決意されました。校名は「共立学校」と名づけられました。

佐野鼎先生が若くして亡くなられたあと、初代校長として高橋是清先生が就任され、今日の学園の基礎を築きました。先生は、生徒と教師に対して、次のような講話をされました。

「学問の目的とは、自分自身に備わっている固有の能力を進歩させることであり、小さいところで言えば、我が身、我が家の利益、大きいところで言えば、社会の利益を興そうとするところにあります。つまり、世の中において利益をもたらし、幸福をもたらすものは、皆、学問なのです。世の中のことをよく注意・観察するときは、どの事物も、学問とならないものはありません。この点をなおざりにすると、どんな学校に在籍しても、どんな立派な大学者についても、どんな多くの書物を読みあさっても、学問にはほど遠いものになるでしょう。学問の成否は、この注意・観察がどの程度であるかによります。そして、この注意・観察は、教える人に属するのではなくて、もっぱら学ぶ人に属するのです。自分で工夫するとか案出するとかいうことは、わずらわしいものです。しかし、まねにばかり熱を入れていては、ついに事物について推論・思考をしなくなるという害がおこります。

学問をするためには、記憶力と思考力とは両方とも欠くことのできない要素であり、記憶力というものは思考力を養うための土台です。例えば、事物の是非得失をよく考えないで、ひたすら前例に従うばかりで、その結果がどうであるかについて本人が関わりないなどというのは、結局のところ、記憶力と同時に思考力を育成しなかったことの結果というべきです。そもそも思考力を用いるときは、おののの事物について、一つ一つ推論・探求することができ、事物の道理を解明することができるのです。これまでだれも発見していないかった理論を発見することさえ可能です。このようなことから考えると、学問は思考力を用いるのが最も貴い、ということになります。」

学園は、高橋先生のこの理念を教育方針の柱として受け継いできました。

明治28年に、それまでの校名「共立学校」を「東京開成中学校」に変えました。これは中国の古い書物『易經』にある「開物成務」に由来し、「人間性を開拓啓発し、人としての務めを成す」という意味です。また、「ペンケン」の校章は、有名な格言「ペンは剣よりも強し」を図案化したもので、いずれも学園の校風を象徴したものです。(表紙にある写真は、1895年に作られた初代校旗です。)

学園長よりご挨拶



■学園長・理事長 丹呂 泰健

開成学園は、1871年佐野鼎先生により創立された、140年以上の歴史と伝統がある中学・高校一貫教育の男子校です。

佐野鼎先生は、幕末に欧米を視察して日本の近代化のためには日本においても学問・人格とも優れた次世代を担う人材を育てるの重要性を痛感し、帰国後学校を創立されました。また、初代校長の高橋是清先生は、「学問の目的は、生徒自身が研鑽し、知識を確実に身に付けた上で、自ら思考力を働かせ、社会で実際に活用し、社会のために尽くすことにある。学問の成否は、教える人でなく、学ぶ人にある。」と説かれました。

開成学園の建学以来の教育方針は、佐野鼎先生そして初代校長高橋是清先生の精神を踏まえ、伝統である「質実剛健」、「自主自律」、「進取の気性と自由の精神」、「ペンは剣よりも強し」そして開成の名前の由来である「開物成務」の精神を体得し、かつ時代の変化に対応し、我が国と世界の発展に貢献する人材を養成することです。そして、開成学園は、これまで明治、大正、昭和、そして平成の四つの時代に社会のいろいろな分野で活躍する人材を輩出してきました。

開成学園の現在の生徒の姿は、運動会、筑波大付属高校とのボートリースの対抗戦、文化祭などの行事を通じて見て頂ければ、伝統を守りつつ、時代の変化に柔軟に対応していることがお解かりいただけると思います。質実剛健であるが自由な雰囲気の下、運動会などの行事は生徒が自主的に責任を持って運営しています。また、目標に向かって生徒全員が一体となり立

ち向かう姿さらに高校生が中学生を指導する姿を見て頂ければ、中学・高校の一貫校の良さも分かると思います。そして、開成学園の卒業生は、社会に出てからも開成という強い絆を持っています。

また今日の開成学園の教育内容が充実していることは、大学への進学率が長年極めて優秀な成績を収めていること、また数学オリンピックなどの国際大会や俳句甲子園の全国大会の好成績などからも、皆様ご承知の通りです。このことは、優秀な生徒が開成学園に入学していることに加え、先生方の教育方針と適切な指導、また優れた教育環境が大きく寄与していることは言うまでもありません。

今後とも開成学園が、引き続き私学のトップ校の地位を維持し、かつ発展させることは大事な子弟をお預かりする学校として大変重要なと考えております。同時に開成学園として引き続き全力を尽くしていく所存であります。同時に開成学園の教育の目的は、申し上げましたように大学進学ではありません。佐野鼎先生と高橋是清先生が言われたように、知識を蓄えた上で、思考力を働かせ社会の実践に貢献できる学問、人格とともに優れた人材、開成健児を育てることです。将来の日本、そして世界においては政治、経済、文化、科学技術などいろいろな分野で大きな、場合によっては予想をしない変化があると思います。開成学園の生徒にはこうした変化に柔軟に対応できるように、そしてできれば変化を起こす人材に成長してもらいたいと願っています。そのためには、学力の向上に加え、「進取の気性」、「高い志」、「自主的な取り組み」が大事であり、これらは開成学園の生活の中で生徒自身が掴むよう先生を中心で教えています。精神も肉体も柔軟で資質に富んだ十代の若者が集まり、お互いに切磋琢磨し、学問を学び、人格を磨く機会を持つことは大変まれたことで、その後の人生の可能性も大きくなると思います。

開成学園は、中学・高校の男子の一貫校として、我が国の教育の最先端を行く私学として、伝統を守りつつ、新しい時代に応える教育を実践する学校として、生徒、父兄、保護者皆様の期待にしっかりと応えていきたいと思います。

そして140余年の歴史が培った伝統である。

中一から高三までの全生徒によって組織される運動会や生徒会・部活動を通じて、自分の夢に自分より一步近づいている先輩に出会うだろう。暗中模索であった自分と同じように、未知から既知への過程を進んでいる後輩をかわいらしく思うことがあるかもしれない。先輩、後輩、同輩と交わる中で、自分の近未来を知り、自分の変化の軌跡を跡付け、共に成長する喜び、楽しさを発見するだろう。

10年後、20年後、あるいはもっと先の自分のイメージを描くには、開成の先生方は最適なモデルだ。入学のときから卒業までずっと担当してくださる多くの先生方から、生徒の成長のためなら労を惜しまない真摯な生き方を学ぶことができる。

君達が卒業するとき、自分の変化の軌跡を逆にたどると、遠く140余年前の開成学園創立の精神に繋がっていることを発見するだろう。「開物成務」、「質実剛健」、「ペンは剣よりも強し」で表されている建学の精神が脈々と息づく開成の伝統に、自分が育まれてきたことを知るに違いない。

生涯の仕事を自らの手で選択していくためには、暴力や圧力に屈することのない自由の精神のもとで、華美な装飾に惑わされることなく質素だけでも本質を求めることが必要だ。そのようにして選択した生涯の仕事は、校名の由来である「開物成務(人間性を開拓啓発し、人としての務めを果たす)」を自分の中に得た証となることだろう。

人としての務めを果たし、世の人のために尽くすことのできる自己を実現するために、開成学園の教室で知力を、運動場で体力を、人々との交わりの中で德力を、日々の生活中で生活力を磨き上げて欲しい。

未知なるがゆえの無限の可能性を持つ君へ



■校長 柳沢 幸雄

開成学園で学ぶ中学・高校時代は、君の生涯にとって、まだ何も決まっていない、何も選択していない、すなわち「未知なるがゆえの無限の可能性」を持つ段階から始まる。そして自分の生涯の仕事を選択し、社会の中で果たす役割の具体像が見えてくる「既知なるがゆえの有限の可能性」を持つ段階に向けた、大きな変化の過程である。

AとBの二つからAを選択する場合、「Aを選んだ」と考えることができます。しかし、「Bを捨てた」と考えることもできる。「選んだ」と考える人は、自分の夢の実現に向けて一步前進したと喜びを感じるに違いない。一方「捨てた」と考える場合、選択肢が狭まってしまったことに不安を抱くことがあると思う。中学・高校時代は選択することの喜びと不安という心理的な大きな揺れを経験する時期だと言える。遙か昔にその揺れを経験した者の多くは、躍動感に溢れ、人生で最も楽しい時期だったと回想するが、大きな揺れの真っ只中で、翻弄されている若者にとっては、振り飛ばされないように必死で「手摺(てすり)」に掴っている時期だと思う。

開成学園には君達のガイド役となる3つの「手摺」がある。生徒、先生、

教育課程

国語

中学 基礎力育成を重視し、教科書と併用して教員手作りの自主教材・プリントを多用している。古文は中2、漢文は中3から学習する。中高一貫教育の利点を活かし、読書指導、グループ討論や研究発表など、生徒が学習に対して積極的・能動的に取り組んでいけるように、さまざまな手法を取り入れた授業を実施している。また、他科と協力した新聞づくりなど、総合学習的要素を含んだ活動も行っている。



高校 現代文・古文・漢文に分かれ、教科書以外にも自主教材、プリントなどを多用した授業を実施している。現代文では文学・哲学・科学など幅広い分野の文章を素材にして、「読み」「考え」「書く」という作業を徹底して行っている。古文では『徒然草』『枕草子』『大鏡』『源氏物語』を中心に、漢文では『史伝』『詩文』などを軸に学習する。また、高3ではいずれの分野においても、それまでの学習成果をもとに、入試問題演習により実践的な読解力・表現力の育成を図っている。なお、高1の古文・漢文については、高校からの入学生に対して、進度調整のための補講を実施している。

社会 地歴・公民

高校 高校1年では必修科目として世界史と政治・経済を学習し、選択科目として日本史、地理から1科目を学習する。高校2年では必修科目として倫理を、選択科目として世界史、日本史、地理のなかから2科目を学習する。高校3年では、文系・理系に分かれ、世界史、日本史、地理、倫理・政経の中から選択学習する。

各科目とも専門の教員が担当し、教科書のほか自主教材をもとに学習をする。また、興味深いテーマを取り上げ、ビデオ教材など視聴覚機器を使ったり、ディベートやレポート作成など発表学習をしたり、学習効果をあげる工夫をこらしている。



中学 中学では歴史と地理を1・2年で学習し、公民を3年で学習する。それぞれ1週間に2時間ないし3時間あり、少しずつていねいに学習する。また、3年では地域学習を行い、歴史・地理と深く関連させて実施している。

数学

中学 各学年とも、内容を2つに分けて、授業が並行して行われる。計算や式を中心とする授業では、計算や式に熟練し、いろいろな技術や方法が自然に身についていくよう工夫している。図形を中心とする授業では、図形のもつ様々な性質を調べることを通じて、図形の世界が、数個の明らかな事実（公理）を基にして、論理によって正確に説明されていく様子を紹介していく。中3では、主に高校の内容を扱い、2つの内容は次第に融合されていく。



高校 高校から入学しても、中学から進学しても、高1の終わりには進度が一致するように、工夫されている。高2では、1学期は講義で2学期から問題演習の授業と、1学期は共通で微分を学び2学期頃から積分の講義（主に理系）か問題演習など（文系）を選択して受ける授業とが並行して行われる。高1終了時には文系の大学受験に必要な範囲が、高2終了時には理系の大学受験に必要な範囲が、習得済みになる。高3では、高度な入試の内容に対応した実践的な授業を、問題演習を中心に行っている。それに加えて、理系だけの実践的な授業も別に展開している。

6ヵ年と3ヵ年を見通した大きな枠組の中で、教材や授業展開の方法など細かな工夫を日々重ねながら、教育を実践している。

理科



中学 授業は、物理・化学・生物・地学の4科目に分け、専門的な視野から3年間で理科すべての分野を基礎から学習する。中学校舎には最新設備の理科実験室が3部屋あり、パソコンを実験に利用する分野もある。総合的な学習の時間では、2年で岩石を中心とした自然学習、3年で環境・エネルギー学習を行い、共に理科と深く連携して実施される。



高校 教科書をもとにした学習よりむしろ自主教材による授業や実験・観察を積極的に採り入れている。高校生の実験は、おもに特別棟にある物理・化学・生物・地学の専用実験室で行われている。また、中学・高校合わせて5名の理科実験助手があり、中学・高校合わせて実験室が9室あることは実験重視の本校理科教育の一端を表すものである。

英語

高校

高校では各学年とも週6時間授業を行っている。担当教師が自主教材等を利用し、基礎から高度なレベルまで着実に力がつくよう指導している。また、これ以外にネイティブの先生による、英文講読とディスカッションの授業も学年を越えて行われている。

中学 各学年とも週5時間授業を行っている。読解・文法・作文の力をバランスよく身につけられるように教材などを工夫している。

また、各学年とも国際理解を目的とした総合学習の授業が週1時間設けられている。そこではネイティブの先生により、クラスを2分割にしての活発な授業が行われている。



保健体育



●体育分野

生徒一人一人の個性や健康上の留意点などをふまえた授業を行うために、担当教員が6年間（高校編入生は3年間）一貫して受け持つことを原則としている。

格技や球技など学習内容は多岐に渡るが、一つ一つに2～3ヶ月間かけてじっくりと取り組むため、基本動作の修得はもちろんのこと、試合を楽しむレベルにまで達することが可能である。

●保健分野

体力トレーニング理論、心と体の健康、日常生活での安全確保などについての知識を習得するとともに、救急救命法、応急処置法など緊急時に適切な対応ができるような知識・技術を身につける。また、人間の体に影響を与える社会問題についても理解を深めていく。

中学 体力テスト・集団行動・体操・リズム運動・陸上競技（中長距離）・フットサル・剣道・柔道・バスケットボール・ハンドボール・バレーボール・卓球

高校

〈体育〉 体力テスト・ハンドボール・陸上（跳躍）・バドミントン・バスケットボール・バレーボール・サッカー・ソフトテニス
〈保健〉 トレーニング理論・心身の機能の発達と心の健康・健康と環境・障害の防止・健康な生活と疾病の予防

芸術 音楽・美術

中学

中学では芸術科目として音楽と美術を1年から3年まで学習する。実技を中心に表現力を高め、時代に即した豊かな感性を養うことを目指す。1年時に美術館見学を行っている。



高校

高1（編入生は高2）では必修選択授業、次年度からは自由選択授業となる。音楽（ギター・ピアノ・歌唱・作曲の4コースに分かれる）・美術・書道・工芸の中から1科目を選択し授業を受ける。中学での授業内容を下地とし、さらに専門的な段階に進む。校外でのコンサート鑑賞や美術館見学等も行われることがある。

技術・家庭 家庭・情報

高校

高校1年生では、教科「情報」を履修し、コンピュータ教室を利用してIT（情報技術）の基本的な知識と技術を身につける。高校2年生では、教科「家庭基礎」を履修し、家庭・社会の生活についての知識、技術や考え方などを身につける。



中学

「技術分野」では、1年で「木材の設計・製作」、2年・3年で「情報とコンピュータ」「電気回路の設計・製作」を行っている。実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識と技術を学び、適切に活用する能力と実践的な態度を身につける。「家庭分野」では、衣食住・家族・保育など日頃の自分自身の生活と人生について考え、将来を見つめながら、自分らしく自立して生きるための力を身につけることを目標としている。

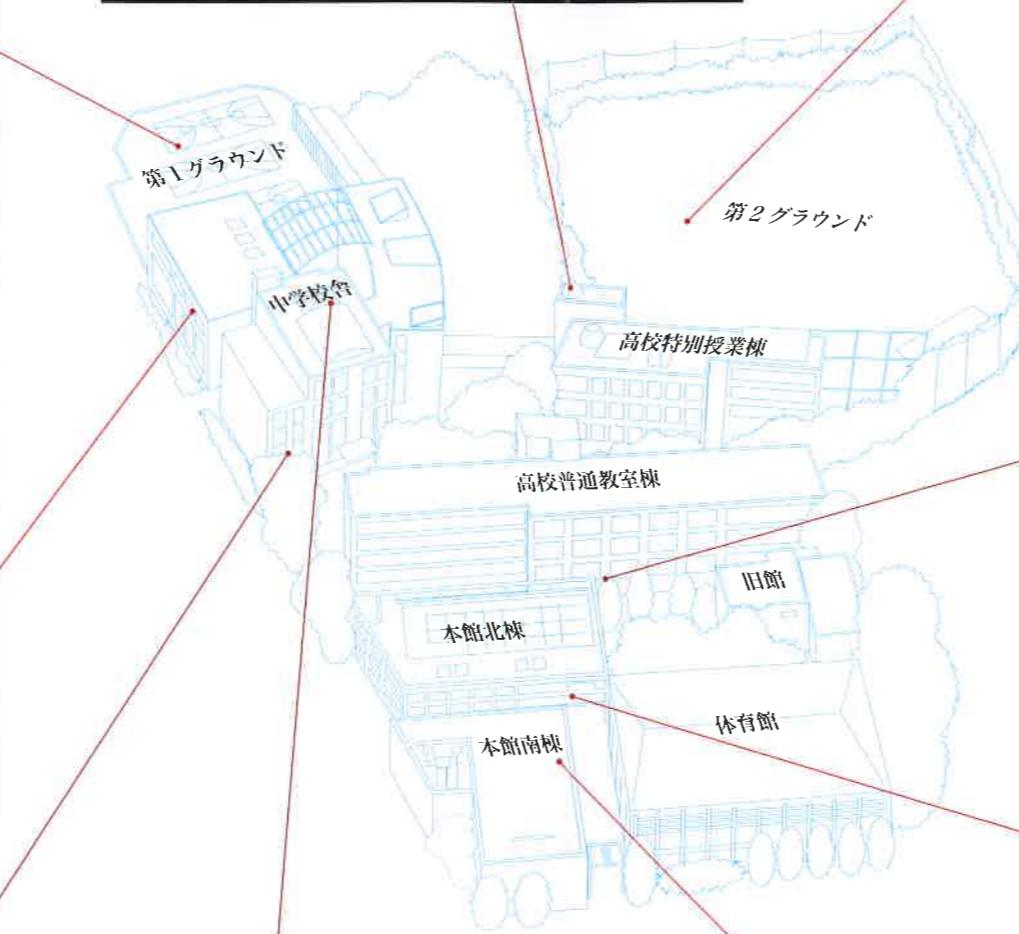
教育施設



▲第1グラウンド

◀天体観測
ドーム

第2グラウンド▲



▲理科実験室



▲コンピューター教室



図書館▲



▲視聴覚教室



小講堂▶



▲食堂



▶開成学園那古宿舎（千葉県館山市）



4月 ポートレース：筑波大学附属高等学校との定期戦



4月 ポートレース応援団



7月 水泳学校：(於：那古宿舎)



6月 学年旅行：中学1年・富士方面



6月 中3修学旅行：奈良・京都方面
(法隆寺にて)



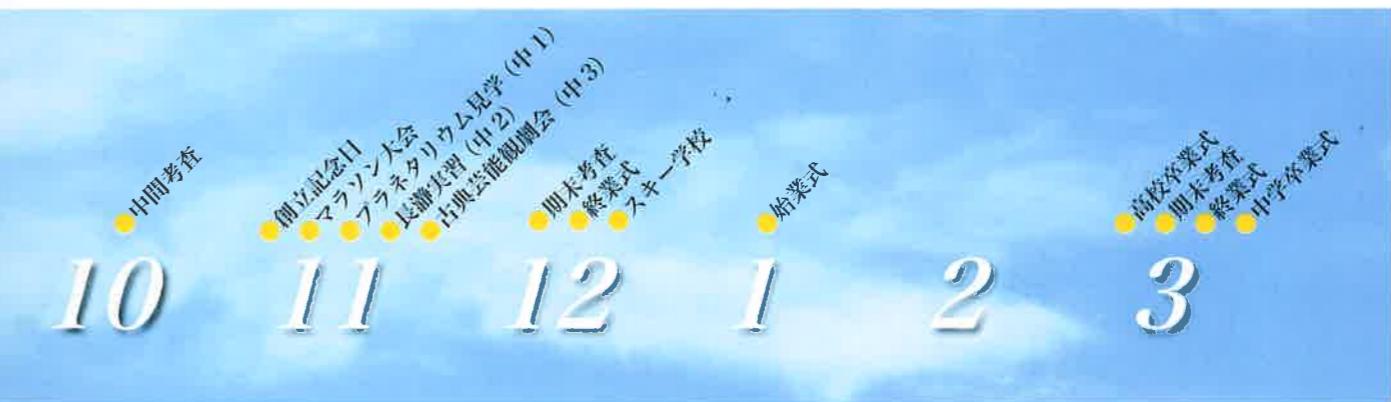
6月 高2修学旅行：(熊本県球磨川にて) 行き先は、毎年生徒中心に決定



5月 運動会：(棒倒し)



運動会：(開会式)



9月 文化祭

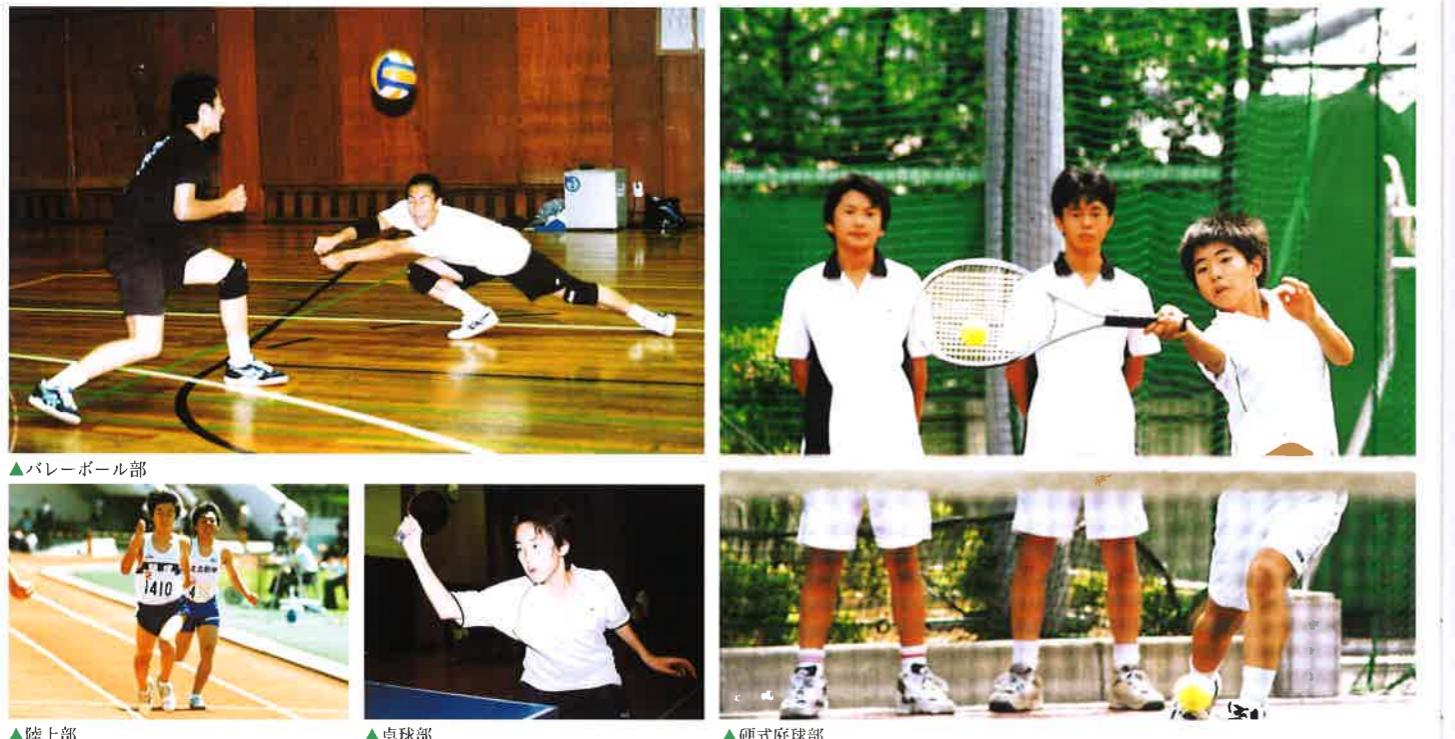


11月 開成マラソン



12月 スキー学校

生徒会・部活動



- | | | | | | | | |
|------------|--|---|--|---|---|---|--|
| 運動部 | ●弓道部
●ゲートボール部
●剣道部
●硬式庭球部
●硬式野球部
●サッカー部
●山岳部
●柔道部 | ●水泳部
●スキー部
●ソフトテニス部
●ソフトボール部
●体操部
●卓球部
●軟式野球部
●バスケットボール部 | ●バドミントン部
●バレーボール部
●ハンドボール部
●フェンシング部
●ボート部
●ラグビー部
●陸上競技部
●ワンドーフォーゲル部 | ●E.S.S. (英会話)
●囲碁部
●演劇部
●折り紙研究部
●音楽部
●開成管弦楽団
●クイズ研究部
●K.A.M.C. (手品)
●写真部
●コンピューター部 | ●社会科研究部
●J.G.K. (ジャグリング)
●将棋部
●書道部
●数学研究部
●生物部
●地質部
●鉄道研究部
●天文気象部
●俳句部 | ●美術部
●物理部
●弁論部
●模型部
●理化学部
●生物部
●軽音楽部
●パズル研究部
●文芸部 | ●合気道同好会
●コントラクトブリッジ同好会
●ボードゲーム同好会
●マクロビオティック同好会
●競技かるた同好会
●JAZZ 研究同好会
●球技同好会
●海外活動連絡同好会
●K.I.S.S. 同好会
●外国語研究同好会
●開成ピアノの会 |
| 学芸部 | | | | | | | |



- | | |
|------------|--|
| 同好会 | ●IQ 同好会
●KAISEI DANCE 同好会
●ブーメランを飛ばそう同好会
●謎解きゲーム同好会
●人狼研究同好会 |
| | ●合気道同好会
●コントラクトブリッジ同好会
●ボードゲーム同好会
●マクロビオティック同好会
●競技かるた同好会
●JAZZ 研究同好会
●球技同好会
●海外活動連絡同好会
●K.I.S.S. 同好会
●外国語研究同好会
●開成ピアノの会 |

(2015 年度現在)

制服紹介

制服は黒色詰襟学生服とし、ペン剣マーク入りの黒ボタンをつける。夏期は上着を着用せず、白ワイシャツでもよい。中学生の襟章は金のペン剣、高校生は銀のペン剣である。制帽は黒色学生帽とし、ペン剣の記章をつけるが、制帽の着用は任意である。

写真は制服のミニチュアで、手前は「開成バッグ」といわれるスクールバッグである（これも使用は任意である）。



主な進学先

- 東京大学
- 一橋大学
- 東京医科歯科大学
- 千葉大学
- 筑波大学
- 東京工業大学
- 東京外国语大学
- 北海道大学
- 東北大学
- 群馬大学
- 埼玉大学
- 横浜国立大学
- 東京農工大学
- 東京学芸大学
- 横浜市立大学
- 山梨大学
- 名古屋大学
- 京都大学
- 大阪大学
- 九州大学
- 防衛医科大学
- 東京慈恵会医科大学
- 日本医科大学
- 順天堂大学
- 東京医科大学
- 自治医科大学
- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- 上智大学
- 中央大学
- 明治大学
- 立教大学
- 法政大学
- 青山学院大学
- 学習院大学
- 東京理科大学
- Harvard University
- Princeton University
- など





学校法人 開成学園
開成中学校・開成高等学校

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4丁目2番4号
TEL 03(3822)0741(代)
<http://www.kaiseigakuen.jp>